

校外パトロールに同行して

茅ヶ崎MGC地区 中庭 悅子
勝田茅ヶ崎地区 山田 謙一

昨今、子ども達が事故、事件に巻き込まれる痛ましい報道が続いている。通学路さえ不安が募ります。保護者の方々は登下校の安全を確保するため、忙しい時間をやり繕りして毎日パトロールを行っています。その奮闘する姿を紹介したいと思い、茅ヶ崎台小学校の通学路パトロールに同行してお話を聞きました。

茅ヶ崎台小学校（児童数620人、450世帯）は、月曜日のみ班毎に集団登校して、それ以外の登下校時はバラバラになります。郊外パトロールは各地区毎に当番制で（各家庭月1回程度）実施時間は下校時間に合わせて通学路を回り、夕方（子ども達の戸外での活動時間）には、周辺の公園などを含めて広範囲を回ります。パトロール時には必ず腕章をつけ、ブザーなどの防犯グッズも携帯します。ちなみに保護者が学校に行く時も腕章を持参しないと入れないと聞き、学校を

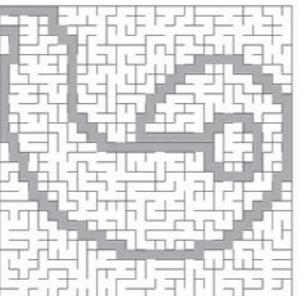


広報部員紹介

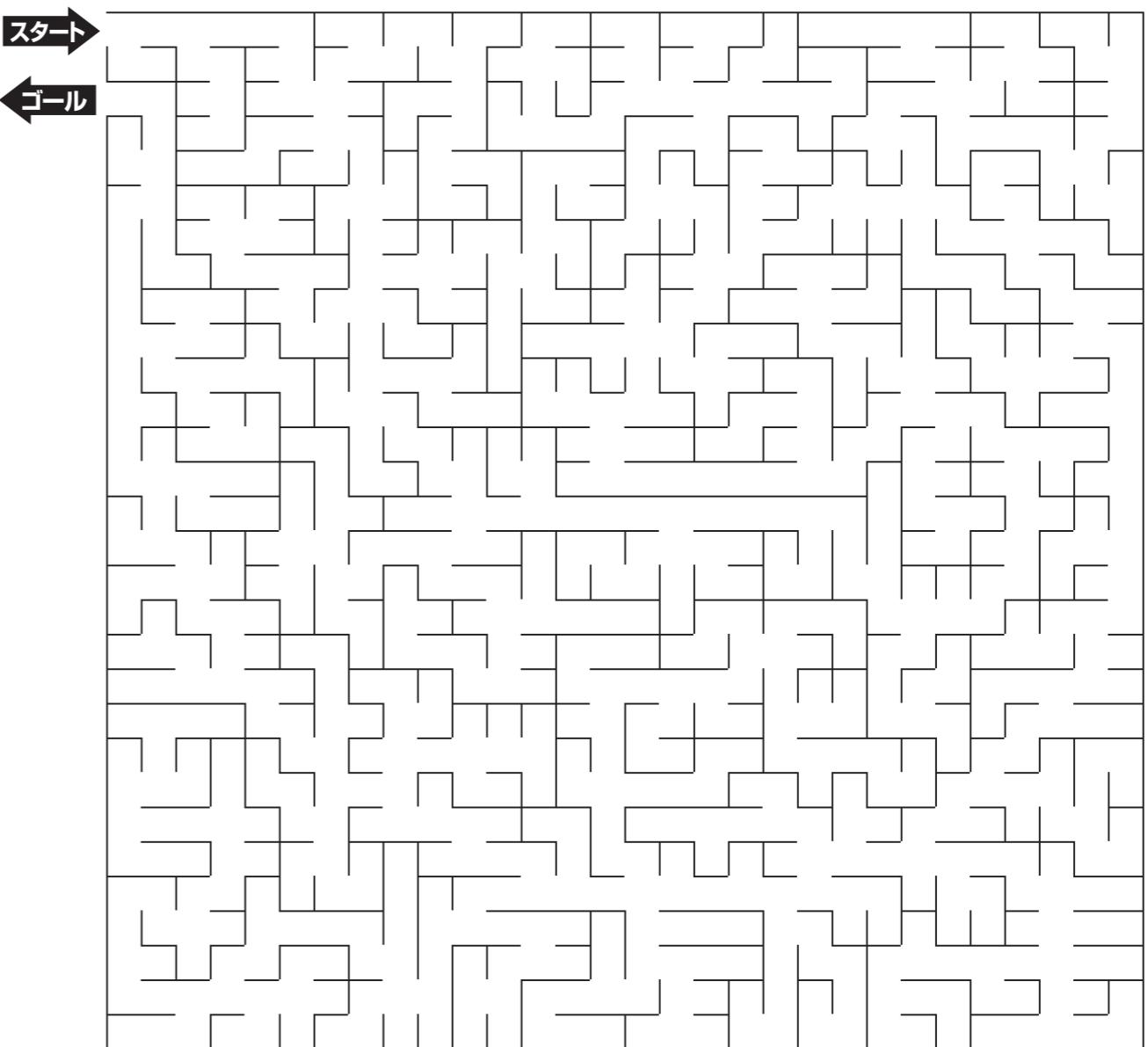
東山田地区	金城 正浩	新栄早渕地区	佐久間真由美
山田地区	安藤 晴雄	都田地区	斎藤 健一
中川地区	石坂 好美	池辺地区	蛭田 正章
勝田茅ヶ崎地区	山田 謙一	佐江戸加賀原地区	三浦 將男
かちだ地区	古川 末子	川和地区	東海 浩美
		荏田南地区	堀間 勝利
		渋沢地区	井上 進
		茅ヶ崎MGC地区	中庭 悅子

<答え> 「まがたま」

まがたまとは、縄文時代や弥生時代などの古代日本で用いられた装身具の一つで、「勾玉」と書きます。曲がった形をしてそのはしに穴が開いています。



<問題>迷路を解いて現れたものを解答欄に記入してください。



<解答欄>

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------



このマークは、青少年に優しい環境を願ってヨコハマの青少年指導員が決めたものです。



荏田南地区 堀間 勝利

私たちの遠い祖先である2000年前の弥生時代の人々がこの都筑区の地でどのような生活を送っていたかを体験学習する『古代人体験』が8月26日の晴れの日に区内の小学校5・6年生を対象に開催されました。昨年までは1泊の宿泊体験だったのですが、今年からは新しい内容で日帰りの1日体験で開催されました。会場は都筑区の中心部にあたるセンター北駅に程近い横浜市歴史博物館とそれに隣接している大塚・歳勝土遺跡公園です。

主な体験学習内容は、博物館内の常設展示室の見学、竹を切り出して湯飲み作り、火起こし体験、ボランティアガイドによる遺跡見学、勾玉作りとかなり内容の濃いものとなっています。

集合時刻の9時に元気よい子ども達がお母さんに連れられて会場に集まってきた。参加者は、43名で3グループに分れてのグループ活動を行います。男の子と女の子の割合は6:4くらいの割合でしたが、このような体験学習に興味を持っている女の子が意外と多いことには驚きました。

到着と同時に弥生時代の衣装である貫頭衣を着て開村式の後に、博物館内の常設展示室の見学を行いました。弥生時代の都筑区の丘陵地帯に広がる集落や墓地などについて説明を受け、屋外の大塚・歳勝土遺跡公園へ移動して展示室の模型と現在の地形との違いを感じました。

公園への移動後は、各グループそれぞれ1本の孟宗竹を子ども達全員でのこぎりを使って切り出しました。普段使い慣れていないために、中々うまく切れないでいましたが、指導員が教えてくれたのでみんなが上手にのこぎりを使えるようになり、思いおもいの長さの竹を手にして湯飲みを作り上げました。

次に子ども達が一番の関心を持ったのは、『まいぎり法』による火起こし体験でした。火きり棒の回転力をうまく使い、摩擦熱を利用して火をおこす方法です。4人1組で行うのですが、チームワークを必要として慣れるまでは大変でした。コツをつかむと次から次へと火種を綿状にした麻に包みグルグルと廻して火を起しました。あまり知られていませんが、この歴史博

物館では野外の歴史施設を、無料でガイドしてくれる市民ボランティアの方々がおられます。遺跡の前の説明文をじっくり読み込むのも良いですが、ガイドさんに同行してもらうことで、更に都筑区の弥生時代の生活が身近なものになります。また、子ども達が疑問に



思っている事に親切に答えてくれるので、歴史の勉強に大いに役立つことと思います。

最後の体験学習は勾玉作りです。手順は青田石に勾玉形状の下書きを描き、紐を通す穴を始めに開けます。四隅を順番に目の粗い紙やすりで削っていきます。力のある子どもや、やすりの目にあわせて上手に削れる子どもは、30分で下書きの大きさに削ってしまいますが、力の無い子どもや、やすりを使ったことの無い子どもは、自分の思うように削れず悪戦苦闘しながら、必死に下書きの形になるまで削っていました。

そこから更に目の細かい紙やすりに持ち替えて、全体を勾玉らしい形に丸みを帯びさせて行く作業になります。だんだん石が小さくなり、形も丸みを帯びてくるので握力の無い子ども達には持ちづらく、イメージ通りの勾玉の曲面を出すことが難しく、削り過ぎて思ったより小さくなってしまう作品もありました。

私もこの勾玉作りを経験したことがあるのですが、大人だったせいか糸ノコや棒やすりで一気に下書きまで削り、その後に徐々に紙やすりで形を整える作業でした。今回のようにすべて紙やすりを使って削って行くのは大人でも大変な作業のように思えました。

勾玉の形になったら最後の仕上げに艶出し作業を行

います。細かい目の耐水性の紙やすりで、水をつけながら磨いていきます。講師によると、この時が一番緊張するとの事です。その理由は、水を使って磨いているので滑りやすく、磨いた後にタオルで拭くのですが、タオルから勾玉を落としてしまう子どもを数多く見てきたそうですが、今回は全員が割ることなく終りました。

完成した勾玉に好きな色の紐を通して、隣の子と見せ合ったり、出来栄えに満足して喜んでいる子どもの笑顔は印象的でした。

このような充実した歴史体験学習を経験したことで、学校の授業で教わること以上に歴史に対して理解を深めてくれたことだと思います。また、実際に体験したことにより一層郷土の歴史に興味を持つことでしょう。

そして何よりも、今回の体験学習を終えた子ども達が口々に『楽しかった!』、『来年も参加したい!』と言ってくれたこと。それ以上に、解散後の別れの際に『さようなら!』、『ありがとうございました!』と挨



拶をして帰って行く子どもたち。都筑区はこのような子ども達がいてすばらしい街であるに違いないと再認識させられるとともに、これから青少年育成活動への励みとなりました。

研修会報告 安全で楽しくロープライスで遊べる《ドッヂビー》

佐江戸加賀原地区 三浦 將男

に遊べるゲームも指導していただきました。遊び方はまず、1人1個の帽子を新聞紙で作りそれをかぶります。それから、チーム毎に陣地を決め、開始の合図で他チームの人とジャンケンをし、勝ったら相手の帽子をゲットして自分の陣地に運び、次の相手とまたジャンケン、負けたら自分の陣地に戻り、ゲットした帽子があればかぶり直してさらに対戦します。時間内に獲得した帽子の数で勝負が決まります。このゲームは帽子を作ることも楽しいし、新聞紙で手軽に遊べるゲームとして、是非実践してみてはいかがでしょうか。

研修の最後は、グループごとにスポンジ製フリスビーを使った新しいゲーム(遊び)を考案し、その遊び方を発表しました。冬季オリンピックの影響かカーリングをヒントにしたもののが多かったようですが、各チーム工夫を凝らした遊びが披露され笑いを誘う場面もあり、有意義な研修の締めくくりとなりました。

最後に、大変お世話になりました神奈川フライングディスク協会の方々には、心からお礼申し上げます。

